



MyToken

仮想通貨の新しいエコロジー

ホワイトペーパー V1.1

2018.03

目次

第一章 概要

第二章 背景

2.1 新たな世界

2.2 新たなトレンド

2.3 投資者の訴求とニーズ

第三章 MyToken

3.1 MyTokenの使命

3.2 MyTokenのプロジェクト現状

3.3 MyTokenの発展計画

3.4 MyTokenの業務構造

3.5 MT&使えるシーン

3.6 ロードマップ

第四章 トークンの発行計画

4.1 トークンの配分

4.2 トークンリリースの計画

4.3 トークンの買戻し

第五章 コンサルタント

第六章 ガバナンス体制

第七章 注意事項とリスク

7.1 注意事項

7.2 リスク

第一章 概要

近年のブロックチェーン技術の急速な成長はビットコインとイーサリアムのスマートコントラクトによって代表されています。ブロックチェーン技術の急速な成長は、派生的な仮想通貨投資に伴って、革新的な産業を作っただけでなく、新しい投資や資金調達モードに成長してきました。こういう新しいモードは（会社に対する）低い資金調達コストや高いリターン、（投資家の皆様のための）高い流動性、そして産業の急速な成長を通して市場の多様な可能性が見せられています。

MyTokenは2017年8月に仮想通貨に関する情報提供をビジネスの突破口として、半年間のソフトウェア更新し続けた今、中国でユーザーシェア率No.1の仮想通貨情報アプリになってきました。

将来、MyTokenは既に多くの仮想通貨投資家を集まっているプラットフォームとして、仮想通貨投資の新たな仕組み作りの基礎となるブロックチェーン技術と独自のトークンシステムの発展によって、さらにユーザーの泣き所をきっちり解決することを望んでいます。この仕組みは投資家の取引コストを最大限で減らし、最も価値のあるコンテンツと社会経験を提供し、より価値のある投資ツールとなることを目指しております。

MyTokenはバリュー投資を提唱し、非中央集権化の考えと仕組みを唱え導きます。またユーザーと投資家を一つにし、ユーザーがブロックチェーンの世界への変革に關与する手助けができることを望んでいます。

第二章 背景

2.1 新たな世界

2008年ナカモト氏はビットコインのホワイトペーパーを世に出し、素晴らしい不可逆的な技術、社会革命を起こしました。ビットコインは綿密に作られた非中央集権化システムであり、全体のシステムの安定性を強化するために出来る限り多くのノード(参加者)を必要とします。このシステム起動するための難問に直面したナカモト氏はホワイトペーパーの“インセンティブ”の項目の中で、一連の使用するトークンの発行と参加者へのトークンの移動の

仕組みが非中央集権化されたインセンティブプログラムを完全なものにすると記述しています。

10年経った今、ビットコインのトークンインセンティブを振り返ってみると、その結果はとても良いものであり啓発的でもあります。ビットコインのシステムは2000京毎秒ものハッシュレートを持ち、ビットコイン自体も最高値を更新して時価総額3000億ドルを超え、1ビットコインも19000ドルを記録しました。ビットコインは史上最大の非中央集権化された組織とコミュニティを作り上げ、直接的なトランザクション(取引)、取引所、ICOによる資金調達、ビットコインネットワークの代表となるメディアやコミュニティを発展させ、そして、そのネットワークは未だに急速な成長を続けています。

ビットコインの技術は人々を奮い立しつつ、基盤技術の変革によって新しい産業—ブロックチェーン産業や仮想通貨、そしてこれに基づいた新しい経済の仕組みを生んだことです。この仕組みは開発者と投資家に新たな「発想の革命」をもたらします。開発者は仮想通貨を通して、より透明で中立な形で大衆からの資金を得て、早期から支援を受けることができます。投資家は仮想通貨のスタートアップの発展途中に参加し、その組織が成長するとともに高いリターンを得るという機会を多く得ることができます。

2.2 新たなトレンド

ブロックチェーン産業に基づいた仮想通貨投資はブロックチェーン産業全体の発展の影響を間違いなく深く受けるでしょう。過去10年の間、ブロックチェーン産業全体は「ブロックチェーン1.0」から「ブロックチェーン2.0」への変化を遂げました。そしてブロックチェーン産業発展も仮想通貨の投資トレンドに影響を深く及ぼしました。

「ブロックチェーン1.0」の時代は、ビットコインに代表されるように、新しい技術によって通貨と支払いの非中央集権化を解決することを望んでいました。

ブロックチェーンのコンセプトはすでに提案されていましたが、コミュニティ全体が未だ深く理解しておらず、ブロックチェーンやビットコインを扱うプロジェクトに巡って「通貨と決済の解決策」としての役割を担っており、そしてブロックチェーン活用の想像の範囲は決済手段に限定されていました。そのため、当時、仮想通貨投資と言えばビットコインへの投資を思い浮かべるのが普通でした。

イーサリアムとスマートコントラクトの発展が「ブロックチェーン2.0」の時代の幕開けとなります。ますます多くの人々がビットコインの根底にある技術の価値を認識し、他の産業への応用に傾倒するようになりました。イーサリアムの出現によってブロックチェーンをチューリング完全にする構造が作られ、プログラム開発者が簡単にステートフルでロジカル

なスマートコントラクトを作りやすくなりました。これによりブロックチェーンプロジェクトの開発コストと技術的な障壁が劇的に減りました。ブロックチェーンの、非中央集権的で第三者への信用が要らないということによって、金融、IoT、医療、司法、コンテンツ配信、芸術、コミュニケーションとSNS、エンターテインメント、広告、データ保存などに関する全ての産業に広く使われています。

最近の急速な産業化傾向によって、仮想通貨投資はより多くの選択肢を持つようになり、ビットコインや「伝統的な」貨幣決済を除いて、この新しい技術インフラを今あるビジネスを改良し変革するために使おうとする多くの先駆的なチームが毎月現れます。私たちは引き続きクリエイティブで独創的なプロジェクトとチームに重点を置いて行きます。このように名前の付けられた通貨への投資は「相対的な成熟に向かう」ビットコインを持つ利益があるでしょう。デジタルの資産投資全体はより多様になってきています。私たちはこの多様化の傾向が未来のメインリズムになると信じています。

2.3投資者の訴求とニーズ

ブロックチェーン産業の急速な成長は仮想通貨投資を促進し、そして仮想通貨投資の急速な発展はさらにブロックチェーン産業の成長を促進しました。不完全的な統計によると、2017年からICOファンドに代表される資金集めの活動は500件近くに上り、合計で50億ドルが投資され、引取可能な仮想通貨の数は約2000種類に届き、仮想通貨を扱う取引所は300軒近くもあります。（MyTokenのデータより）

急激な発展に伴い、トラブルが必ず生じています。仮想通貨投資を行っているもしくは行いたい個人投資家に関していえば、産業化の傾向によって彼らは多くのチャンスを得るとともに不便さを強いられてもいます。

1.仮想通貨の多様性: MyTokenのデータによると、約2000種類もの仮想通貨が現在取引可能です。そして毎月何十種類もの新しい仮想通貨が未だに増え続けています。これらの通貨は全部で約100もの細分化された範囲に及んでいます。ほとんどの個人投資家はほぼプロジェクトの情報を理解していなく、いくつかの主要な通貨の情報（プロジェクトのゴール、チーム構成、所在地、資金状況、価値予測など）を知ることはほぼ不可能になっています。

2.仮想通貨投資取引が分割されすぎている。

仮想通貨産業の発展の中で、取引所のスタートアップコストがとても低いにもかかわらず大きな利益を得られる可能性を含むため、世界中で多くの人々が開発しています。MyTokenのデータによると、現在300近くもの有名な仮想通貨取引所があり、各取引所は独自の資

産、戦略によって異なった仮想通貨を保有し、異なる取引価格、取引板の厚さを提供しています。どのようにすれば投資家が全ての投資や配分、価格を一目瞭然になることが出来るようになるか、これも早急に解決すべき課題になっています。

3.個人資産を測ることが難しい。

上の二つの理由によって、投資家の資産も極度に細分化されていて、異なった取引やウォレットに散らばっています。そしてICOプロジェクトやまだ現金化されていない仮想通貨を含めるとさらに複雑になります。また一方、仮想通貨の価格が大きく変動するので投資家が自分の持つ全ての資産を見積もることはほぼ不可能になります。

4.投資操作のコストが高い。

現在、仮想通貨投資操作は法定通貨と仮想通貨の取引や仮想通貨同士の取引、ICOへの参加などがあります。法定通貨の取引は手渡しでの取引がほとんどです。一方仮想通貨取引は主にネットでの取引で、ICOで調達した資金はたくさんのプロジェクトといくつかのユーザーのグループなどに分けられます。

このように、取引1つ1つがかなり細分化されていて、効率化された構造になっていないので、結果的に無駄なコストがかかってしまっています。

5.投資意思決定のコストが高い。

仮想通貨投資の本質は早期のビジネスやプロジェクトへの投資であり、個人投資家は実際にエンジェル投資機関のように行動しています。各プロジェクトに対して、その市場価値/市場評価が適切であるかどうかを調べていくことはとても難しく、また、チームの経歴や技術的なスキル、プロジェクトの競合環境、成功可能性、そしてどういった関係を持っているのかさえも調べることは難しいです。もし私たちが分析せず、プロジェクトの宣伝に流されるままに盲目的に買えば、一方で私たちの投資に大きなリスクをもたらし、他方で市場勢いを止め、悪意ある、詐欺の市場を加速させることになってしまうでしょう。

6.急速成長による産業の混乱

ブロックチェーンは非中央集権化とグローバル化の要素を包摂して生まれたため、政府や国家が行政上の命令を通じて産業全体を監視することは難しく、衝動的な投資によって、産業全体が混乱に陥り、チームの発展がなく活動していない良くないプロジェクトが増えてしまいました。そのプロジェクトでは製品は作られず、資金調達やオンラインでの取引を行うために作られた架空のホワイトペーパーを前提としたビジネスプランさえもあります。その上仮想通貨の名前を使った詐欺のようなマルチ商法が多く行われている。そのためとても悪い結果となり、多くの投資の損失が生じました。上記の全てが2017年7月から私たちが見てきた産業の混乱です。このような架空の計画を立て、資金募集ができた詐欺チームは身を抜いた結果、大量の資産の損失は出てしまっていて、急速に成長している分野であるブロックチェーン産業にも波及し手痛い打撃を与えます。

第三章 MyToken

3.1 MyTokenの使命

ブロックチェーンの主な特徴が二つあります：非中央集権化と非信頼化です。

ブロックチェーンはリアルな生活とビジネスにおいて信頼関係によるコストを大いに削減し、未来のビジネスの構造に大きな影響を与えます。この核心的な技術革命によって、将来測り知れない新しいビジネスモデルの爆発的な誕生を予測することができます。そして、ブロックチェーン技術は次回の人類世界の革命を起こすキーになるでしょう。

根底にあるブロックチェーンの技術や仮想通貨を構成するブロックチェーンのプロジェクトによって、新たなビジネスが誕生します。一方で開発のための資金を得るための新たな起業の形式も誕生し、投資家が早期の投資プロジェクトに参加することができるようになります。もしこの良いサイクルが適切に動くと仮想通貨投資は新たな技術を発展させることになるでしょう。

この未来像と認知に基づいて、MyTokenはバリュー投資を促進しブロックチェーン産業の発展は全体として将来的な価値を重視する投資家に豊富なリターンを生むでしょう（ビットコインが生まれてきたから我々が見てきた通り）。MyTokenは全ての人々にプロジェクト自体とブロックチェーン産業についてより知ってもらい、産業全体のより良い未来を作るという使命に基づき、効果的にブロックチェーンと伝統的な世界を繋ぎ、また効果的にブロックチェーンのプロジェクトと投資家を結びつけることを目指しております。

3.2 MyTokenのプロジェクト現状

MyTokenは2017年8月に設立され、仮想通貨の市場情報を提供することを主なビジネスとしてやってきました。私たちは投資家に最も客観的なデータ、情報、ツールを提供しブロックチェーン産業とプロジェクトパートナーについてより良く理解していただくために、ユーザーの皆様に仮想通貨投資の適切なプラットフォームを提供することを望んでいます。そしてデータ、ユーザー生成コンテンツ、コミュニティ、システムサービスを統合することで投資家の投資コストをかなり削減することができます。

2017年8月、MyTokenは複数の取引所の価格が一目でわかる投資家の悩みを解決するアプリをiOSとAndroidでファーストリリースしました。半年間ソフトウェア開発を繰り返した結果、20個以上のバージョンをリリースし、現在では下記のような機能があります。

- 1.300軒近くの取引所のデータと70軒以上の人気のある取引所のリアルタイムでの詳細な価格と出来高データが集合されている
- 2.200種類以上もの仮想通貨のリアルタイムでの価格
- 3.ロソク足や取引の出来高、詳しい取引データ
- 4.数千種類のユーザーが最も興味のある通貨の紹介、下位市場、ICOの販売価格やプロジェクトの情報
- 5.ユーザーの全ての資産がリアルタイムで見れる
- 6.一部の主要な取引のお知らせとtwitter情報との統合
- 7.好ましい価値ある公式アカウントとメディア情報の統合

MyTokenは中国で最も人気のある仮想通貨市場の情報プラットフォームになりました。400000名以上のユーザーを持ち、毎日100000名以上のユーザーよりMyTokenをご利用頂き、50個以上のWeChatコアユーザーグループがあり、アプリの最新バージョンはiOSやAndroid、HTML5/Macなどの端末をカバーしています。

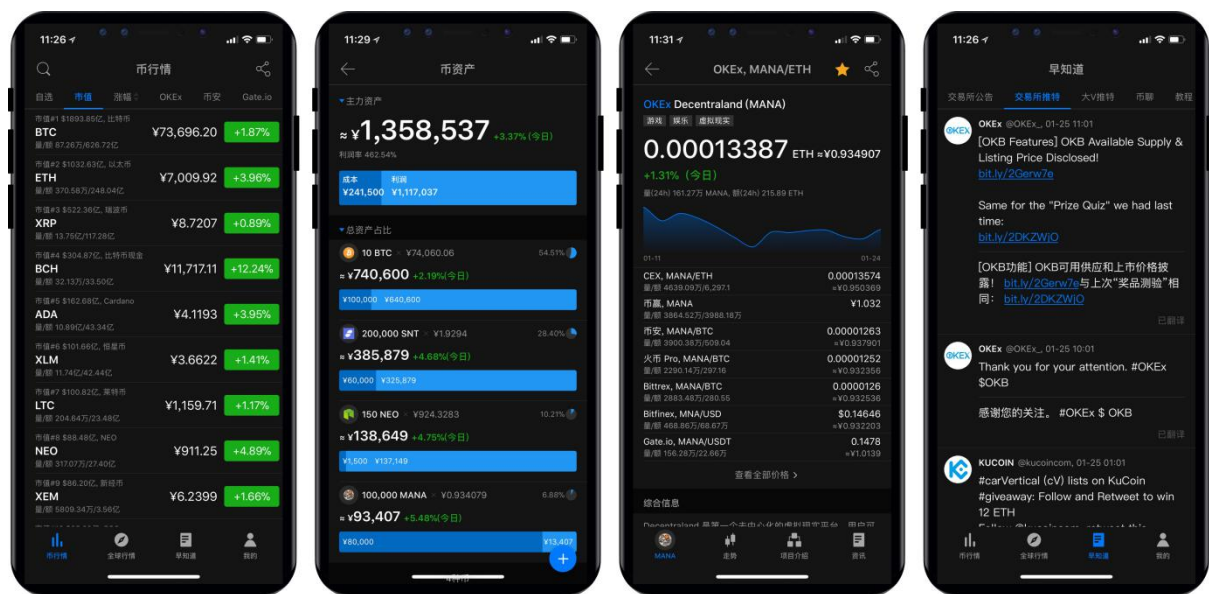


図1: MyToken APP スクリーンショット

3.3 MyTokenの発展計画

MyTokenは目標を提示し、具体的な目的のための技術的なフレームワークを何度も愚直に使うのではなく、技術的にも構造的にも最も最適な方法でチャレンジします。半年間のアプリ改善により、我々は目次2.3に記載されている投資者の訴求とニーズの順位3つを解決し、一般ユーザーのデータの観点から見るとMyTokenは大多数の人々に認識され好まれています。MyToken開発チームはさらに遠くを見据えながら残った3つの挑戦に取り掛かる準備ができています。

効率的な投資環境を投資家に提供しながら我々は絶え間なくユーザーの意思決定のコストを削減し、投資家と開発者が未来のブロックチェーン技術をよりよく理解し関与する手助けをしています。それには多くの問題があり、絶え間ない努力が必要です。MyTokenは効率的でユーザー親和性がある良い仮想通貨投資システムを作るためによりシステム開発者やビジネスパートナーを魅了するために中心的な技術とトークンシステムを導入します。

MTのプラットフォームの目標は以下を構築することです。今後さらなる追加を行う可能性もあります。

1. ターゲット広告： 広告主と顧客のより良いマッチングを達成し、広告主はより精確的な流量を得て、ユーザーは広告の選択ができ、不要な広告で注意力を奪われることが無くなり、双方の利益に繋がります。
2. 集約的な取引： 提携の元、多くの仮想通貨取引所とMTを繋げ、取引を一元化し、投資家により良い体験を提供するとともに、より多くの取引を可能にします。
3. 海外ICOプラットフォーム： ルール違反しない前提で、新規プロジェクト立ち上げを目指す開発者と投資家との間にチャンネルを作り、効果的に投資が行われる環境づくりを可能にします。
4. データサービス： MTの保持するデータを専門のチーム向けに提供し、対価としてMTを用いるシステムを構築し、必要なデータが必要な場所に行き渡るようになります。
5. Dapp ストア： Dappストアを開設することにより、全てのブロックチェーンのプログラムを展示され、資金募集を助け、一緒に勧めたがるコアユーザーを集める。
6. UGCシステム： MTコミュニティ上でユーザーがコンテンツを独自に生成することを可能にし、コミュニティがより多くのユーザーにより活発化し、仮想通貨投資に関わる質の高いコンテンツが流通する環境を作り出す。

3.4 MyTokenの事業構造



図2 MyToken現在のサービス構造



図3 MyToken エコロジー改良後のサービス構造

3.5 MTと使うシーン

上述の構想に基づき、MyTokenはERC20プラットフォームに基づいたトークンを発行し、略称はMTです。MTはMyTokenプラットフォーム内における価値の移動を担うものであり、プラットフォームの発展に寄与する血液となります。また、価値の流通を促進し、開発者と顧客の結びつきを強化するため、MTの保有量に基づき、定期的に「MT貢献度」（暫定）と呼ばれるものが配布されます。「MT貢献度」はあるシーンのなかでユーザーの権利に紐付けられることもあれば、ユーザーのアクションにより消費されることもあります。

3.5.1 広告エンジン [ターゲット広告]

目下、MyTokenは多くの仮想通貨投資家を集めるプラットフォームに成長しており、素晴らしいブロックチェーンプロジェクトと潜在的ユーザーを結びつける価値を提供することができます。ここで、MTは広告主とユーザー双方にとっての関心をバランス化し、双方の利益を最大化する広告エンジンとなることを目指します。

過去の広告モデルでは、システム自体が欠点を持っていました。大量の広告によりユーザーの注意力は削がれる一方、広告主にとってはコストがかさむ状態となっていました。過去の広告モデルでも、ユーザーデータと行動履歴からユーザーの特性を推測するターゲット広告は存在していましたが、ユーザー自身の主体性は奪われていました。

そして、中央集権的にユーザーデータを管理することによるセキュリティの危険性も忘れてはいけません。その上でユーザーの志向を満たすのは、得られるデータに限界がある現状では、難しくなっています。

ブロックチェーン技術はこの問題を解決します。ユーザーは自分自身の興味関心をデータとして提供することで等価な報酬を得ることができます。また、非中央集権的プラットフォーム上で干渉無くプロダクトを使用することもでき、結果的により良い顧客とのマッチ、そしてセキュリティの保持を両立することに繋がります。

[MTの運用]

1. 広告主はMTを使い、MTアプリや他のプラットフォーム上のプロダクトで広告を表示する際に広告料金として支払います。
2. 将来的に、ユーザーは自分の興味関心に基づく広告モニターとして行動でき、その際にMTを報酬として得ることができます。

3.5.2 仮想通貨取引 [集約的な取引]

トレードは仮想通貨投資の重要な部分ですが、現状多数の仮想通貨取引所が乱立している状況では、仮想通貨取引は非常に断片化された形になっています。MyTokenはそれらの取引所を繋げ、集約化することにより、1つの分散型取引所となります。面倒なアカウントの管理はなくなり、取引量自体も増大が見込めます。

MyTokenは既存の中央集権的取引所以外にも、分散型取引所との提携も模索しています。分散型取引所との提携は難易度が高いですが、豊富な通貨の品揃えにより、ユーザーのニーズを満たすものになります。

[MTの運用]

ネットワーク混雑等によりその時間の取引量が一定の値に達した場合、MyTokenは毎回の取引に少額の手数料を徴収します。この手数料はMTもしくは「MT貢献度」により支払いができ、サービスを改善します。

3.5.3 ICOによる資金調達 [海外ICOプラットフォーム]

2017年にイーサリアムのERC20プラットフォームを利用して作られたトークン数は約1000個ぐらいに登るという統計結果があります。イーサリアムプラットフォームを利用したICOという資金調達方法は、投資コストの縮小と流動性の向上に貢献し、開発者と顧客を結びつけるものとなっています。既存の投資手段と比較した際の優位性は明らかであり、ICOは仮想通貨への投資を考える上で最も重要性の高い手段の一つとすることができます。

一方、ICOによる資金調達にあたり、開発者とユーザーは以下のような困難に直面する可能性があります。

1. 開発者は適切な広告チャネルを見つけ、潜在投資家に情報を露出するニーズがあること
2. ユーザーの情報入手手段が公式ホームページ等に限られる場合が多い上、情報が分散しており理解の妨げになる場合があること
3. プロジェクト参加のためKYC認証を行う必要がある場合、KYC認証に際して顧客は多くの情報を提供しなくてはならないこと
4. 情報入手のみならず、実際の投資行為においても公式ホームページ等から得られる情報が不足し、投資コストが肥大化すること
5. 一部のプロジェクト自体が悪意あるもので、美化宣伝や詐欺の疑いがあること

MyToken(MT)はコンプライアンスに基づき、ユーザーと開発者の間でWin-Winな関係を築くことを可能にします。また、MTプラットフォーム上で資金調達に関する情報共有が可能になることにより、開発者と顧客双方が満足する環境構築がなされます。さらに、統合的なサービスのインターフェイスと簡略化されたKYC認証は、登録作業に伴う煩雑さの減少に貢献します。

[MTの運用]

1. プロジェクトに参加する顧客は、MTプラットフォームにログインするに当たり、一定量の「MT貢献度」が必要となります。
2. 開発者は顧客に対し、「MTボーナス」を支給する場合があります。

3.5.4 仮想通貨エコシステムへの貢献 [データサービス]

MyTokenのゴールの一つは、基本的なサービスアーキテクチャを提供することにより顧客および他ユーザーがトランザクションを完了できるようにすることです。その上で、MTは仮想通貨投資家に向けてさらなるハイレベル投資サービスの提供を目指します。

仮想通貨投資においては、既にいくつもの優秀な専門チームが存在します。それらチームは多面的な評価を提供することで、投資家の要求に応え、銘柄の選択やポジショニングの手助けをします。

量的投資、先物取引、デリバティブ取引に関するサービス、契約監査やプロジェクト評価に関する情報提供なども、専門チームの担当領域にあたります。

MTはそれら専門チームと他の顧客を結びつけるプラットフォームを提供します。そのためにMTの保有するデータを利用できる環境を整備します。専門的な業務は専門チームが行うのが最良であり、それら専門チームと彼らを必要とする顧客が協力関係を築くことで、さらなる利益を生み出すことが期待されます。

[MTの運用]

1. 開発者や専門チームがMTの保有するデータを利用する際、「MT貢献度」を消耗します。
2. ユーザーからMT貢献度を開発者や専門チームに捧げて、サービスを交換することができます。

3.5.5 Dapp ストア

ブロックチェーン産業はその上に形作られる多様なプロジェクトにより絶えず発展を続けます。その中でもDappは鍵となるものだと考えられます。2017年だけでもDapp関連プロジェクトは数百が存在し、資金調達に成功しているものも見るすることができます。2018年はDappにとってさらなる飛躍の年になるとすることは自然なことであり、仮想通貨やブロックチェーンの推進派がこの産業に進出してくるのも時間の問題と言えそうです。

MyTokenは、既に示した通り、仮想通貨投資家と開発者の仲介としてブロックチェーン産業へのゲートウェイとしての役割を果たすことを目標とします。しかしそれだけではなく、

MTは開発者らがDappを公開可能なDappストアを構築します。ユーザーはこのDappストアを通じて簡単に興味を惹かれたアプリを検索でき、コメントや提案を残すこともできます。

[MTの運用]

1. 開発者がDappストアにアプリを公開する際には一定量の「MT貢献度」が必要となります。
2. MTプラットフォーム上のDappストアを利用することで開発者はユーザーに関するデータを得ることができますが、それ以外にも、MTを支払うことにより、ストア内でキャンペーンを行うことも可能になります。
3. ストアユーザーはコメントを投稿する際に一定量の「MT貢献度」が必要となります。

3.5.6 ユーザーによるコンテンツの生成 [UGC]

ユーザーが集まる所にはコミュニティが発生します。それらコミュニティではユーザーによって様々なコンテンツの生成が行われることが多々あります。質の良いコンテンツはコミュニティの発展に寄与し、コンテンツ製作者にも利益をもたらすことにより、より多くのユーザーにより多くの価値を提供することになります。

MyTokenのコミュニティでは、ユーザーは仮想通貨関連の情報提供という形の貢献を行うことができます。例えば、より良いプロジェクト概要の提供、プロジェクトに関する更新事項の共有、古い情報の修正などがこれに当たります。その他にも、自分たちの投資観に関する情報や、プロジェクトに関する意見や分析などもその例です。質の高いコンテンツは公開グループでシェアされ、他ユーザーからの同意、称賛、コメントなどの形で、二次コンテンツの生成に繋がっていくことになります。

[MTの運用]

1. プロジェクト概要などは正確性が要求されるため、ユーザーがそれらに関する情報を提供する際は一定量の「MT 貢献度」が必要となります。提供された情報は他ユーザーによる評価(ユーザー間のレビュー)を受け、適切と認められた場合、その情報には価値が認められ、報酬の支払いに移行します。情報の提供者および評価担当者には報酬が支払われます。
2. MTプラットフォーム上での評価システムは、単純な「本当」「ウソ」の評価方法の他にも、コメントによって意見を述べる機能が存在します。全てのアクションには一定量の「MT 貢献度」が必要となります。詐欺や虚偽の情報の拡散を防ぐため、前述の通りユーザー間のレビューを経て正確と認められた場合は報酬が付与されます。
3. MTプラットフォーム上で紹介されるプロジェクトの開発者はコミュニティ内でユーザーと交流を行うことができます。一定量のMTを支払うことで、開発者は投げ銭を行ったり、

ユーザーに対しタスクを与えるなどしてメンバーの増加を図り、コミュニティの質の向上に寄与することが可能です。

4. このようなプロジェクト開発者とユーザーとの交流をユーザー自身が支援することも可能であり、その場合は報酬としてMTトークンを得ることができます。

3.6 ロードマップ

MyToken全体のシステムを設計する中で、我々はその要素の多くの部分が非中央集権的な解決を基盤として完成されるものであると考え、将来的に非中央集権化がビジネス機構の取りうる形になるという構想を持っています。また、MTは一から構築する必要があったプロジェクトではなく、一定のマーケティングおよび技術機構が存在するため、今後の市場の状況や技術の発展に柔軟に対応できるものであると言えます。

このような状況を考慮に入れつつ、我々はロードマップを完成させました。一年以内にプロジェクトを完成させることを目標にしていますが、開発段階中の環境の変化やマクロ的抗力によりスケジュールに変化が生じる可能性は存在します。

2017年8月 MyToken誕生、iOS・Android版開発着手

2017年10月 Angel Round Fund(中国VC)より出資を受ける

2018年2月 主要機能公開、中国業界最も人気のある情報アプリになる

2018年3月 トークン配布、広告システムのテスト、資金調達用トークンシステム構築を予定

2018年6月 既存の取引所での取引情報データ収集を予定

2018年9月 分散型ウォレットのテスト、ICO資金調達データ収集を予定

2018年12月 Dappストア開設、コミュニティおよびUGC開放を予定

プロジェクトの進行の中で、MyTokenの「安全で使いやすい」という国際基準を達成するために、あらゆる機能には最適化と更新が適用されます。

四 トークン発行計画

4.1 トークンの分配

MyToken から発行されるトークンは「MT」と呼ばれます。MTはERC20基準に基づき、総発行数は40億になり、追加発行は致しません。（事業の進捗状況に基づいて、30億まで買い戻します。）。そのうち、45%は未来のエコロジーの開発、コミュニティインセンティブ、及びビジネスコラボレーションなどの為に、ファンドにキープされます。40%のMTはキャンディの初発行用になります；15%は創業チームと初期の投資者に充てられます。

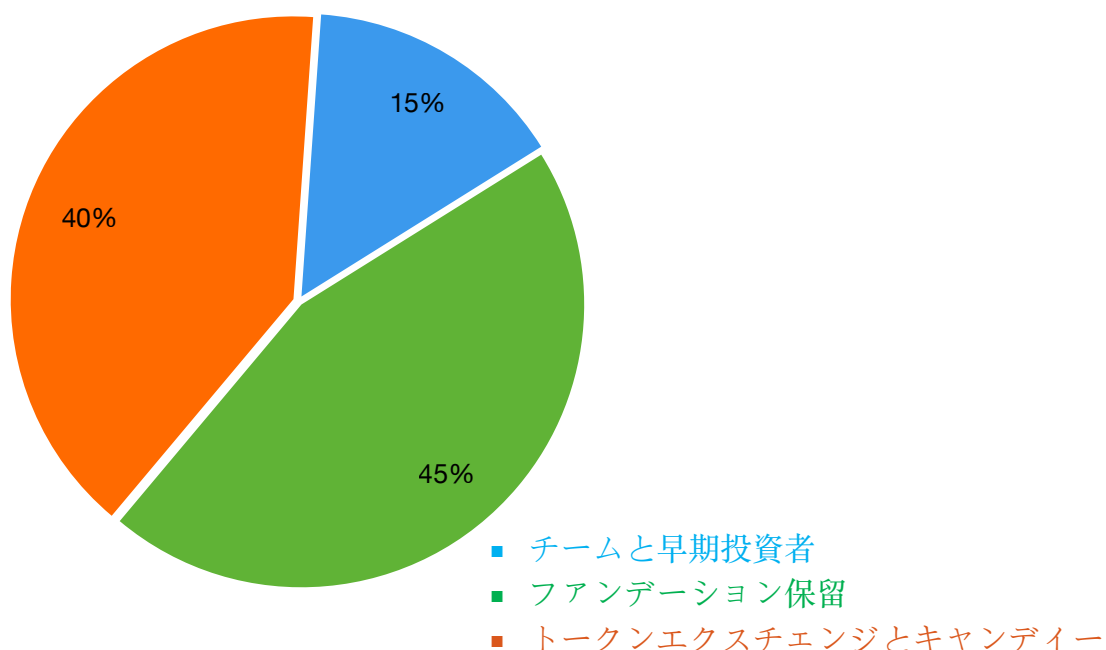
チームと初期投資者分のMTは4年間でロックされ、毎年25%リリースされます。

ハードトップは22000 ETH；

第一回換算レート：1 ETH = 75000 MT、50%をロックされ、六ヶ月に分けて、毎週リニアリリースされます。（購買の順番に基づいて、異なる日に発行されます。）；

第二回換算レート：1 ETH = 45000 MT、20%をロックされ、三ヶ月に分けて、毎週リニアリリースされます。（購買の順番に基づいて、異なる日に発行されます。）

MT トークン配分

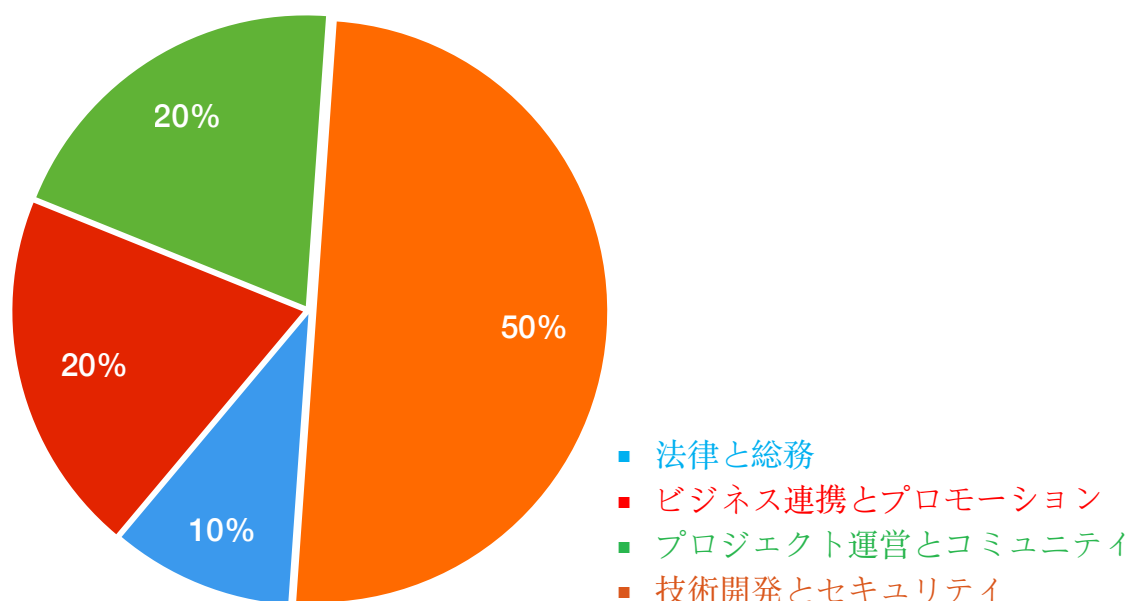


4.2 トークンリリースの企画

マイトークンから両替される全てのETHは仮想通貨投資エコロジーの建設に使われます。

1. チームの構築：両替が完了後、チームの拡大、運営の為、マイトークンの約10%の資金が使われる予定です。
2. プロダクトの研究開発：50%以上の資金はクライアントの開発、ブロックチェーンの開発を含めてのチームの開発用に充てられます。全体的なシステムアーキテクチャやインフラストラクチャの改善、開発とコラボレーションツールの購買、およびセキュリティ保証コストなどに使用されます。
3. マーケットの拡大：グローバルなプロジェクトとして、マーケットの拡大とビジネス提携の為、20%の資金が充てられます。早期にプロジェクトを世界中の顧客に受け入れられることを促進させ、ブロックチェーン業界の優秀なチームと提携することを目指します。
4. コミュニティの運営：残りの20%の資金はマイトークンのプロダクト運営とメンテナンス用に使用されます。高速なプロダクトのイテレーションとプロジェクトの進歩の為に、より良いプロダクトとクライアントサービスチーム形成し、積極的にコミュニケーション間の提携を促進させます。

MTトークン配分



4.3 トークンの買い戻し

MT トークンを設計する時、トークンをシステム全体に合理的に流通させられるかどうか非常に重視しました。MTは全エコロジーの価値を伝送する血液になります、すなわちMTの使用場面、未来予測、意欲と流動性のニーズが、全てのコミュニティとエコロジーの価値の保証になります。そして同時に、価値投資者への最大の利益になります。

すでに一定程度のビジネス基礎を持っているプラットフォームとして、マイトークンは好意的な投資者に持続的なリターンを出力することを目指します。多くのトークン流通アプリケーションは完璧な設計とビジネス化運営する必要になります。このため50%のトークンは買い戻します。（トラザクションのオンライン前なら100%買い戻す）残りの50%はファンドのエコロジー建設とコミュニティインセンティブ用として、毎月一度公開で買い戻させ、対応する数のMTを暗証キーのないアドレスに転送します。この戦略は、MTトークンの総量が30億スケールになるまで続きます。それまでに、マイトークンのエコロジー建設およびビジネス応用が一定の成熟度になっていると考えられます。そしてトークンの流動はMT価値強化をサポートするのに十分であると予測されます

五 コンサルタント

Spectra AdvisoryはSpectra Group下の仮想通貨コンサルティングサービスで、優秀なプロダクトと仮想通貨のコンサルティングサービスを提供します。Spectra Advisoryチームは仮想通貨分野のベンチャーキャピタリストとトップのVCのベンチャーキャピタリストで構

成され、業界の垣根を越える能力と豊富な仮想通貨の運営経験を持っています。サービス範囲は中国、日本、韓国、シンガポール、東南アジア、ヨーロッパ、米国が対応できます。

Telegram: [spectravc](#)

WeChat: [spectravc](#)



六 ガバナンス体制

マイトークン・チームは脱中心化機構の能力を信頼しています。人類知恵の急速発展を通じて、この新しい機構は公開、透明、協力、共有の環境を提供し、更に全ての関係者に最も合理的なインセンティブを与えると信じています。このため、将来の競争の中で、強い生命力が示せると思われれます。

Tokenpia Limitedは資産管理の主体として、MTの発行と管理を行う一方、MyTokenチームはシンガポールでファンド財団（Tokenpia Foundation、下記にマイトークン「MyToken基金会」と呼ばれています）を創設しました。公証、公開、透明、非営利目的でマイトークンプロジェクトを運営します。マイトークンプラットフォームとコミュニティの発展を維持し、全ての資産のセキュリティを管理します。更に、マイトークンの開発チームと運営チームをサポートします。この資金会が貰っている利益は「余剰」と呼ばれて、他のイベントの費用として保留され、配分利益になる事はありません。。マイトークン財団は、シンガポールの会計および事業管理地区（ACRA）の承認を受けており、政府管理ではなく、シンガポールの会社法に監督され、独立して運営されます。

公正、公開、透明を大前提として合理的に資金会の資金を使用し、マイトークンを発展を推し進め、マイトークンのアプリケーションのシナリオをスプレッドして、より多くの機構、会社、プロジェクトなどの開発者をマイトークンのエコシステムに吸収する為、財団は決定委員会を設立します。そして、決定委員会の下で技術委員会や財務部や人事部、及びマーケティングとパブリックリレーションズ委員会を設立します。

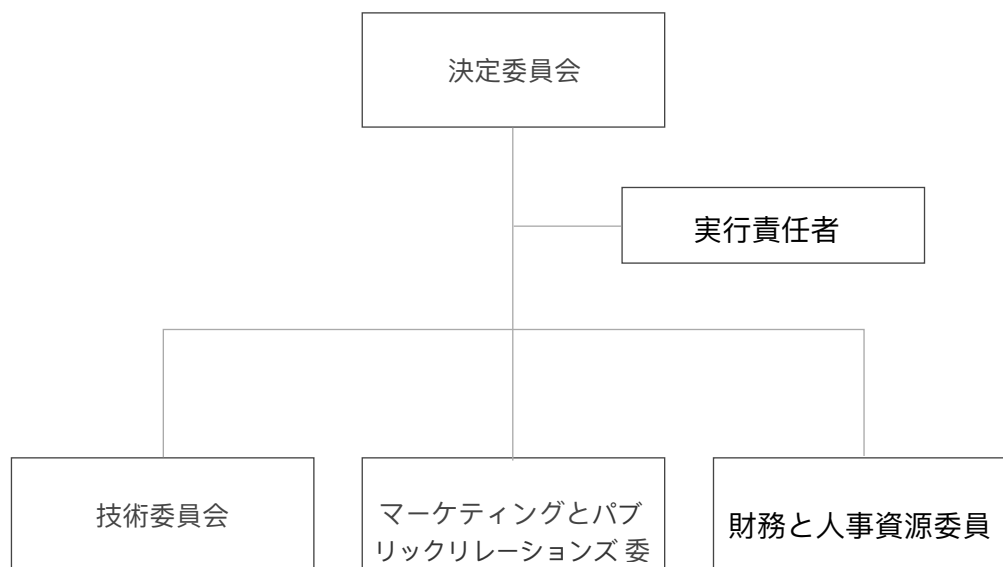


図4 マイトークンファンド財団の構成

決定委員会：

マイトークンファンドの最高の決定部門です。最終意思の決定を行います。財団の戦略企画、年間計画、予算などの重要事項を審議します。更にファンドの代表として、マイトークンのエコシステムに関する重要な議題の採決を行います。

実行責任者：

実行責任者はマイトークン決定委員会から選挙によって選ばれます。実行責任者は財団の日常運営の管理、各委員会間のコミュニケーションと相談、決定委員会の会議の司会、および決定委員会への業務状況の報告することなどを担当します。

技術委員会：

技術研究方向の制定と決定をします。基礎技術の開発、データインターフェースの開放、技術パテントの開発などを担当します。更に、技術委員会はコミュニティでメンバーやエコロジークリエイターとコミュニケーションを行い、及び不定期に技術セミナーを開催します。

マーケティングとPR 委員会：

エコロジーの発展やコミュニティ建設、及びパブリックリレーションズの運営を担当します。委員会は募集集金を利用して、マーケティングの展開とビジネス提携を行います。もっと多くの潜在的なパートナーにマイトークンを注目させます。

財務と人事資源委員：

ファンド財団の資金の運用と審査をします。従業員の雇用および報酬管理、日常業務経費管理をします。

七 注意事項とリスク

7.1 注意事項

このホワイトペーパーはコンセプトペーパーとして、マイトークンのビジネス方向、開発計画とMTトークンを紹介します。目論見書、文書の要約、証券の要約、投資入札及び商品の販売、資産要約ではありません。財団とマイトークンチームはこのホワイトペーパーに提供する情報の正確性と完成性を保証する事ができません。このホワイトペーパーで説明されている活動のいずれかに参加する前に、法律、財務、税務、その他の専門顧問に相談する必要があります。

全てのマイトークンの支持者達はホワイトペーパーと公式ウェブサイトの説明を精読する必要があり、ブロックチェーン技術を全面的に理解して、マイトークンのリスクを理解する必要があります、インベスターズ達は投資し始めると、マイトークンのリスクを理解、更に受け取る事になります。そしてマイトークンのトークンは本質的に寄贈行為で、払い戻し、キャンセルはできません、更に補償を貰うこともできません。

7.2 リスク

1. 現在、世界の主要国はブロックチェーン及び、仮想通貨を使用した融資に対する態度や政策はなおも明確ではありません。投資者は政策上の理由により損失をする可能性があります；

2. MTを含めての仮想通貨資産のトランザクションには不正確性があります。全ての仮想通貨は暴騰、暴落する可能性が存在する上、マニピュレーションされるリスクがあります；
3. 現在のブロックチェーン技術プロジェクトは、非常に競争が激しいです。マイトークンは過去に自分の競争力を証明して、プロジェクトの発展を拡大する為に努めましたが絶対に成功する事を保証する事はできません；
4. マイトークンチームはホワイトペーパーに記載された目標を達成するために努力します。積極的にプロジェクトのより長い、遠い発展スペースを探索しますが、外部環境と内部リソースの不確実性の為、当社はホワイトペーパーの記述を調整する権利を留保します。当社はホワイトペーパー内容の変更を知らせる義務がありませんので、関連するルートを使って、更新した内容を確認してください；
5. マイトークンの将来は、ブロックチェーンテクノロジーと暗号アルゴリズムに基づいて構築します。現在、ブロックチェーンはまだ初期の技術段階です。暗号学も急速に発展しています。マイトークンチームは全てのテクノロジーを正常的に配信されることが保証できません。その同時に全てのテクノロジーのプロジェクトはハッカーに攻撃され、及びコードの脆弱性になる可能性があります；
6. 上記のリスクに加えて、仮想通貨投資はなおも新規の分野であるために我々はいまだ未経験のリスクや、予測できないリスクに遭遇する可能性があります。